

承久の乱といちのみや。
「軍議の地」としての
関わりに注目！

1221年(承久3年)に起きた、朝廷と鎌倉幕府の戦い「承久の乱」。ここ、いちのみやがその「軍議の地」であることをご存知ですか？知られざるその関わりを、いちのみやの歴史まめ知識としてご紹介します。



木曾川



真清田神社

朝廷と鎌倉幕府が対立
「承久の乱」とは？

承久の乱は、1221年(承久3年)に起きた朝廷と鎌倉幕府による武力衝突です。この戦いを幕府方の勝利に導く軍議が行われた場所こそ「尾張国一宮の邊」真清田神社周辺です。この戦いによって、武家が朝廷より優位に立つことになり、以降、明治維新までの600年以上、武家政権の優位を決定づけ日本社会の体制が大きく変わった歴史的な戦いでした。

※現在放送中の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、承久の乱がどのように描かれるのでしょうか。

いちのみや

軍議の地

承久の乱

いちのみや
歴史
まめ知識

じょうきゅう

らん

いちのみや
歴史
まめ知識

承久の乱 軍議の地

「尾張国一宮」

朝廷と鎌倉幕府が争った「承久の乱」。その武力衝突となった場所が、愛知県と岐阜県との県境にある木曾川(当時は、現在の木曾川の流域よりも北側の岐阜県寄り)です。

攻勢をしかける北条義時は、幕府軍を北陸、東山、東海の三道に分け京都に攻め上がりました。朝廷軍は、尾張・美濃との国境、現在の岐阜県側の木曾川で布陣し、幕府軍を迎え撃つことを決めます。東海道を進軍する幕府軍は、6月5日に「尾張国一宮の邊」(真清田神社周辺)に本陣を置き、軍議を行い体制を整えたのち各地域へ軍を進めました。

岐阜県各務原市前渡(大豆戸)を中心とした木曾川の渡河地点の合戦は、幕府軍の勢いに終始苦戦を強いられ、朝廷軍が敗れました。

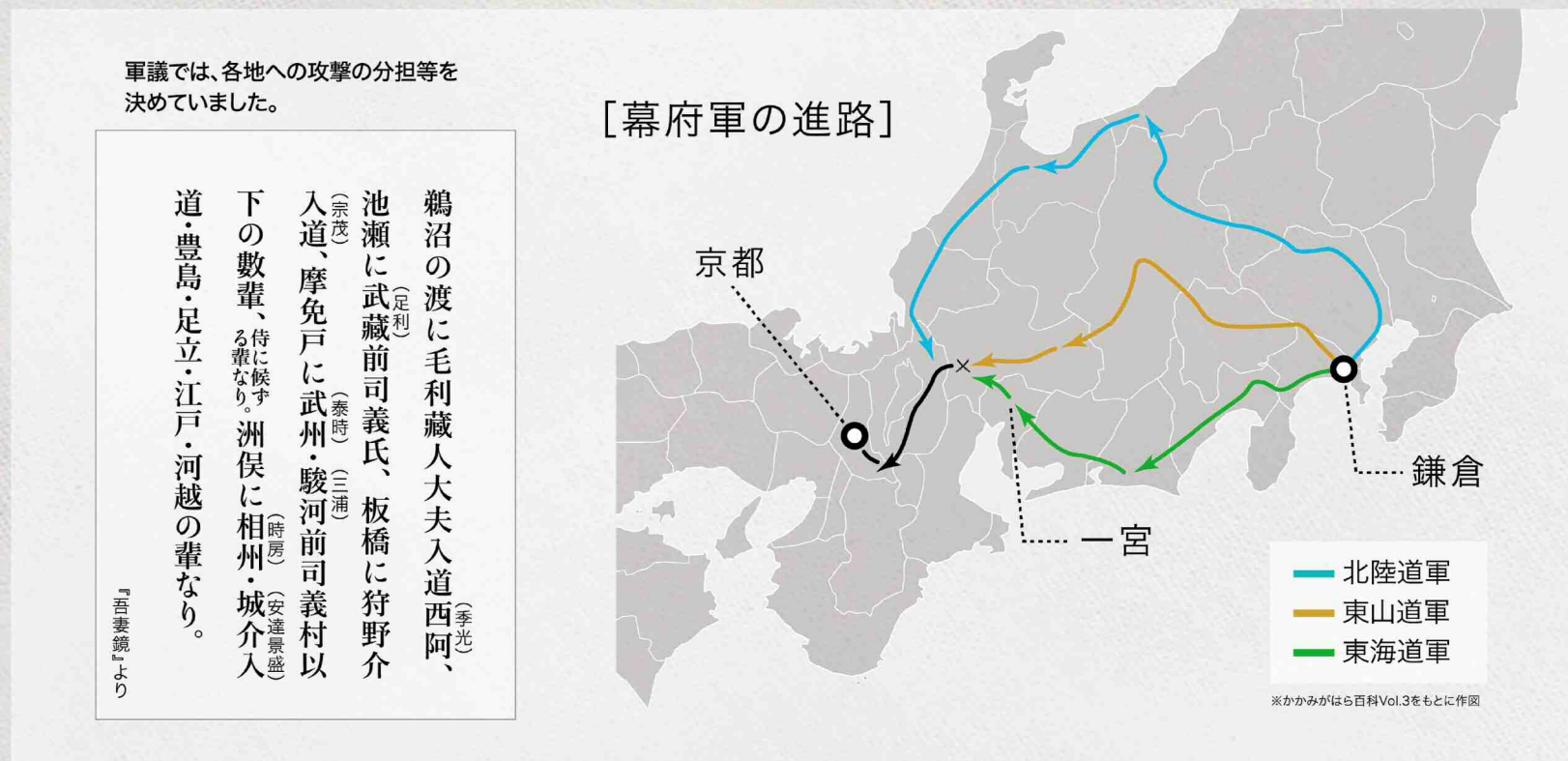
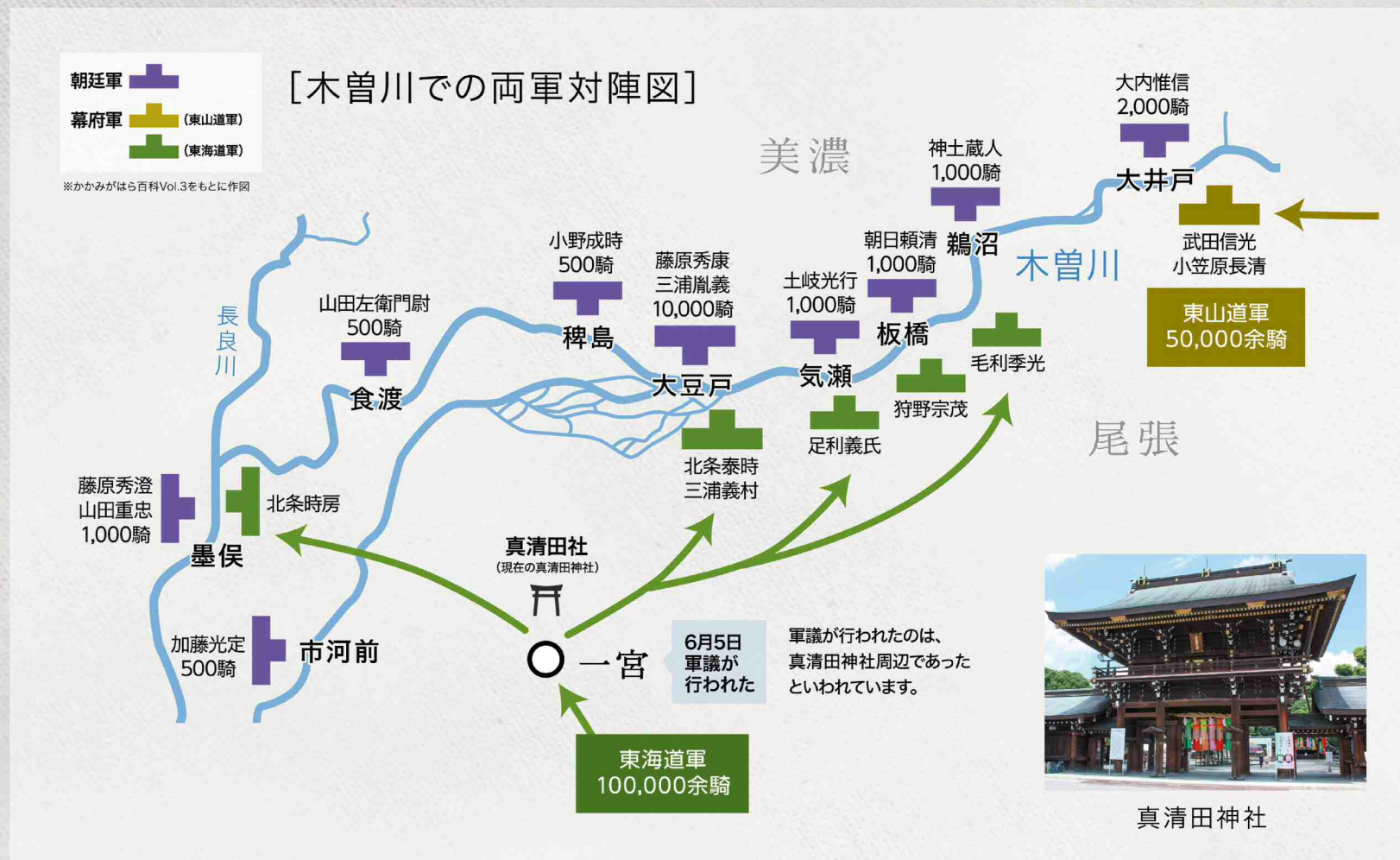
六月五日たつのこくに おはり
一のミヤのとりぬのまへ
関東の両将ときふさやすとき
い下

『承久兵乱記』より

五日 戊午 晴る。辰の刻、関
東の両将、尾張国一宮の邊に著
く。合戦の間の事評議あり。
この所より方々の道に相分る。

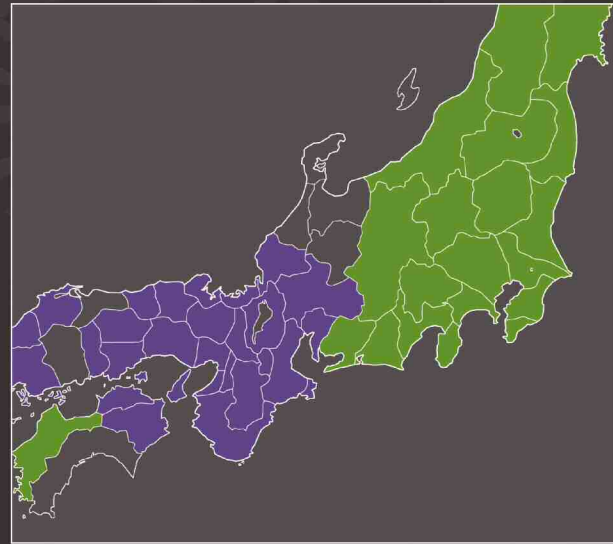
『吾妻鏡』より

承久の乱
軍議の地
いちのみや



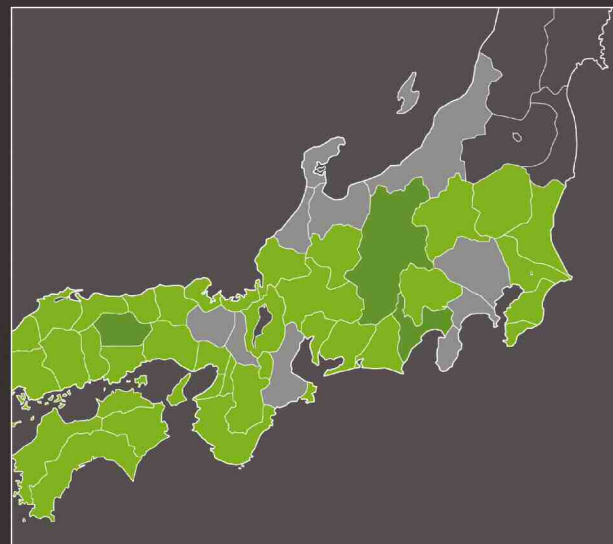
「承久の乱」と
鎌倉時代の移り変わり

承久の乱開始時の「両陣営の勢力図」



● 朝廷・上皇方 ● 鎌倉方

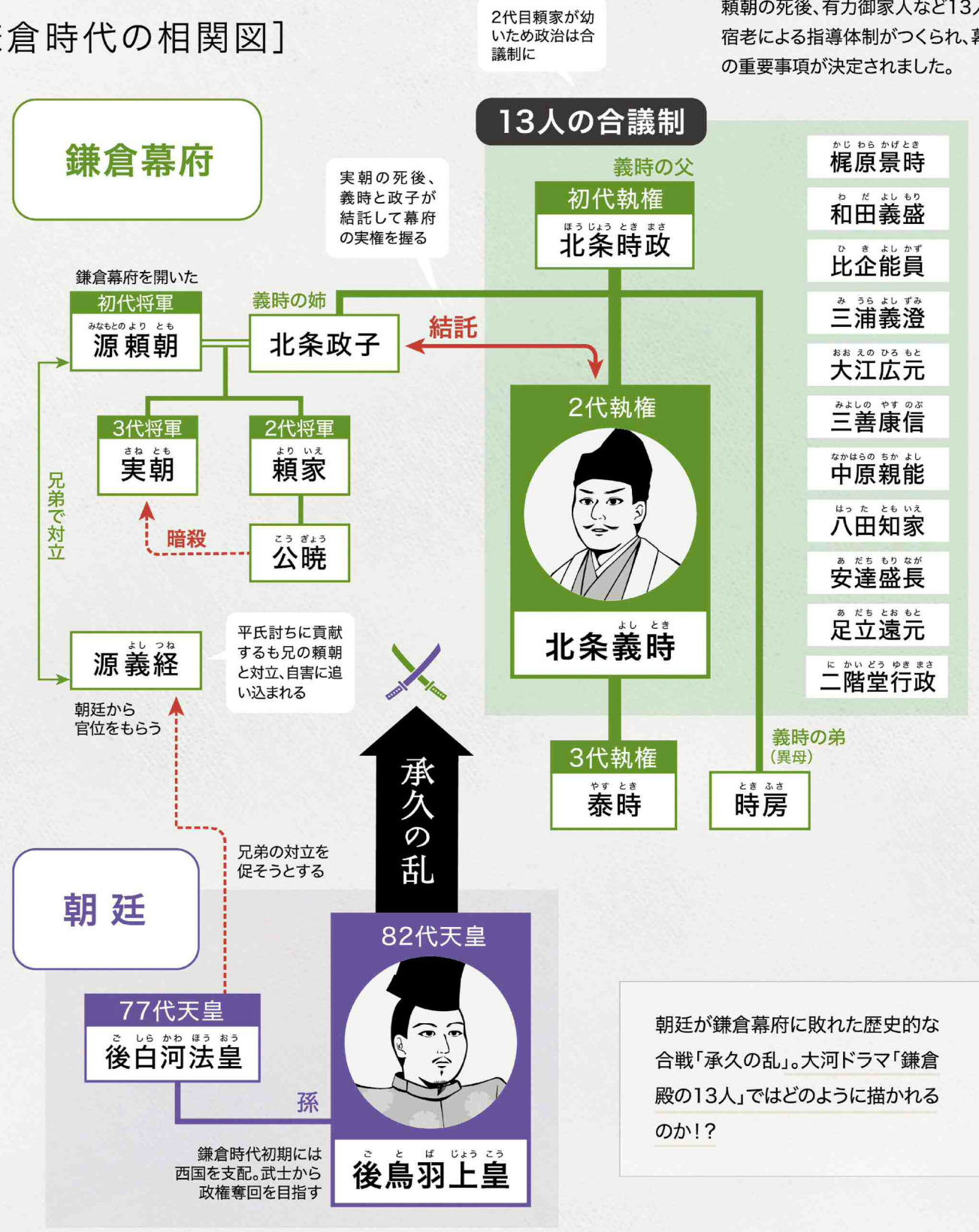
承久の乱後の「守護の配置図」



● 北条得宗
● 北条一門・北条一門で不明
● その他・不明 ○ 不設置

※地図は「日本史大図解 承久の乱」(宝島社)をもとに作図

[鎌倉時代の相関図]



13人の合議制とは
頼朝の死後、有力御家人など13人の宿老による指導体制がつけられ、幕府の重要事項が決定されました。

- 梶原景時 (かじわらかげとき)
- 和田義盛 (わだよしもり)
- 比企能員 (ひきよしかず)
- 三浦義澄 (みうらよしずみ)
- 大江広元 (おおえひろもと)
- 三善康信 (みよしのやすぶ)
- 中原親能 (なかはらのちかよし)
- 八田知家 (はったともいえ)
- 安達盛長 (あだちもりなが)
- 足立遠元 (あだちとおもと)
- 二階堂行政 (にかいどうぎよまさ)

「承久の乱」 ゆかりの地を訪ねてみよう

尾張一宮駅前ビル(1Fコンコース)にて
合同展示 開催中!

承久の乱
軍議の地
いちのみや

1 一宮市 尾張国一宮 真清田神社



所在地:一宮市真清田1丁目2番1号

承久の乱では、幕府軍が尾張から美濃に侵攻する際、北条泰時が率いる幕府側の東海道軍が尾張国一宮の真清田神社周辺に陣を敷き、軍議を開き合戦へと進んでいきました。

訪ねてみよう
道のりMAP



各務原市 承久の乱合戦供養塔



所在地:岐阜県各務原市前渡東町
前渡不動山登山道、中腹

承久の乱の戦没者の供養塔は昭和初期に前渡の各地から掘り出され、前渡不動山中腹に集められています。

訪ねてみよう
道のりMAP



2 一宮市 中島城址



所在地:一宮市萩原町中島

尾張国の所領を持つ御家人の多くが朝廷側となり、承久の乱後に所領を没収されましたが、その中でも所領を取り戻したのが尾張西部の在地領主中島氏。中島氏の旧領回復は「吾妻鏡」にも記された史実です。

訪ねてみよう
道のりMAP



おおいどのわたり 可児市 大井戸渡の古戦場跡



所在地:岐阜県可児市土田2691-1

承久の乱の口火を切った「大井戸の戦い」はこの地が舞台と言われています。土田地区に大井戸の戦いで討たれた者を弔うためのものと伝わる五輪塔や石仏、古くからこの地に残る「桜井の泉」などがあり見学スポットとなっています。

訪ねてみよう
道のりMAP

